

## 【概要】

### 平成29年度 東京都自立支援協議会第1回本会議 全体会②記録

岩本会長	各グループ担当の副会長からどのような内容だったかを5分くらいで報告いただきたい。
海老原副会長	<p>1グループはいろんな意見が出た。ひとつのカテゴリーにくくれない、いくつかのカテゴリーにまたがっている課題が沢山出た。</p> <p>○協議会の機能自体のイメージが定まっていなくて方向性がわからない。どっちをむいているのかわからない。</p> <p>○自分たちの協議会がいいことをやっているのか、ちょっとずれているのか、評価をしてくれる人たちもいないので、活動自体がぼやっとしてしまっている。</p> <p>○縦と横の連携の課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年代、世代についての連携、小さいころから成人期・学齢期・高齢になってからのサービスの連携、相談支援の連携ができていない。</li><li>・民生委員、障害福祉、医療の横の連携ができていない。</li><li>・相談支援事業所はあるがそこに相談をつなげることができていない。基幹支援センターがなかなか資源をつなげられない。</li></ul> <p>○相談支援の課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・相談支援事業所が少なくて困っているというケースと相談支援専門員の質がばらばら</li><li>・人によってそのスキルが違って困るというスキルの課題</li></ul> <p>○社会資源</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の中にたくさんの資源があるはずだが連携や情報が行き渡っていないことでそれが活用できていない。</li><li>・そもそも資源が足りない、事業所が足りない。</li><li>・課題はあるがそれを協議会の場にうまく出せていない。 例) 難病のことを考える場所がない、中途障害の人の相談場所がない、協議会の中の部会が現状の課題に追いついていない。<ul style="list-style-type: none"><li>・協議会も部会も当事者の参加が少ない。支援者中心の議論になってしまう。</li></ul></li></ul> <p>○人材育成と人がいない。(とにかく人がいない。)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こういうことやっていきたい、こういう事業やりたい、ということがあってもそれを担ってくれる人がいない。ヘルパーも足りない。</li><li>・人がいないから人材育成もできない。</li><li>・人材育成しても長く続かずに辞めてしまう。</li><li>・人が足りないということは各委員会、審議会、部会のメンバーの固定化。活動もその結果マンネリ化。活性化していかない。</li></ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ヘルプカードの認知度が低いので知ってほしい、障害のことを知ってほしい、</li></ul>

	<p>啓発が足りない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度が充実したり資源が増えていけばいくほど、障害者はなぜか社会から隔離とか分離されてしまうというジレンマがある。</li> <li>・成年後見をどううまく使っていいかわからない。</li> <li>・障害福祉サービスはあるが、障害者の保護のために使われ、その人が主体的に生きていくための権利を保障するためのサービスとして使われていない。</li> <li>・考え方の転換が地域に浸透していったない。</li> </ul>
<p>金澤副会長</p>	<p>カテゴリー同士の関連性をつないだり、重ね合わせたりしたかったが時間が無くなった。それぞれのカテゴリーにはキーワードがある。全体的には 1 グループとほぼ重なる。</p> <p>○相談支援の在り方自体を深めたり、共通理解をすること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどこまで相談支援に期待、機能させるか。相談支援を進めれば進めるほど赤字になる、やる気のある人ほど辛くなる。</li> <li>・マンパワーの確保が不十分。</li> <li>・特に医療的ケアの問題との関わりで、マンパワーの不足、人材を確保できない、看護師を確保できない、看護師がいても思った通りに仕事ができないという現状。どんなマンパワーを育てるかという技術的なところだけができればいいわけではない。</li> </ul> <p>○教育の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の問題になってくると教育の中でどういう子どもに育ててほしいのか。</li> <li>・共生社会をどういう形で目指していくか。</li> <li>・2020 のオリパラは大きな転換期</li> </ul> <p>○差別解消や権利擁護の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害種別の異なる当事者間での考え方の違い。差別意識。当事者主体となる動きをどのように作っていくか。</li> </ul> <p>○地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8050の問題</li> <li>・地域包括ケアの今後の展開。その中で自立支援協議会の機能の仕方。</li> </ul> <p>○地域移行の問題、地域の社会資源をどのように拡充させていくのか。地域の中で就労の場をどういう風に確保するのか。</p>
<p>岩本会長</p>	<p>最後のまとめ</p> <p>共通のものがたくさん出てきた。日本の社会福祉の問題、課題そのもの。協議会のあり方、構成、進め方、協議会で協議すべき課題の内容、連携の在り方など様々なものが出てきた。当初は課題を挙げて、それらの課題に対する何らかの解決のアイデアを出すところまで予定はしていたが無理があった。日頃感じていることを、見えるようにして共有することが最初のステップとして必要。これは一地域の協議会で取り組めるもの、複数の協議会が連合して取り組むもの、東京都というところで取り組むこと、東京都ではとても無理で全国というところで</p>

取り組むもの、というそれぞれのレベルがいろいろ出てきている。そうしたことを整理して、協議会として何ができるか、協議会が担えること担うべきことは何かということを経後の議論で進めていきたい。2つのグループのアイデアを、この都の協議会の活動である交流会、セミナー、動向集に反映させていきたい。今年度の協議会活動は実行委員会方式で、委員が交流会、セミナー、動向集を担当する。具体的に企画の段階で整理することになるが、課題に対して、東京都の協議会活動として、できることは何なのだろう、というところからまず探して交流会の在り方、セミナーのテーマ、動向集でどのような情報発信が必要かということも形にしていきたい。

大津課長

<議事の(6)報告事項について事務局より説明>

参考資料2から最後の資料までを簡単に、ポイントのみ説明

○参考資料2 「平成28年度 東京都内の地域自立支援協議会の動向」調査票

本年の7月頃に発行する動向集の元の調査票

調査表1 協議会における活動状況 質問を区市町村の所管課にしている。

調査票2 東京都で法関連研修を実施しているが、直接的にやっている区や法定のものではないが人材育成のために実施している研修を具体的に知るための調査表。

○参考資料3 都道府県別 平成28年12月までの計画相談支援実績

都道府県別の平均 全国の全域でサービス受給者に対する計画作成済みの割合が97.1%、セルフプラン率17.4%。

東京都は計画作成済み者の割合が95.7%、それに対してセルフプラン作成済みの割合が23.3%。計画相談策定率は全国より少なくセルフプラン率は高い傾向が続いている。

障害児 全国全域の計画策定済み者の割合が99.1%、セルフプランの作成済者の割合が29.2% 東京都では計画作成済み者の割合が98.1%、それに対してセルフプランの割合が37.5%。

障害児の方がよりセルフプラン率が高いという傾向。

○参考資料4 東京都における平成28年12月までの計画相談支援実績(区市町村別)

計画相談支援実績は区部も作成済み者の割合が90%いかない区や、村や島部には50%切るところがあった。全国的なプラン作成済み者の割合からすればセルフプラン率についても高いという状況。

障害児 100%作成しているところもあるが、極度に少ないところもある。セルフプラン率の高さが成人よりも高いところが特徴的。

○参考資料5 障害者総合支援法関連研修受講者状況

・障害支援区分の認定調査員の研修 28年度27年度に若干減。予算等としては330名と幅をとっている研修。

・市町村審査会委員研修 年度ごとに新委員対象として実施。

	<p>・相談支援従事者研修 初任者研修と現任研修を私共で実施。この申し込み状況が折れ線グラフで、初任者の研修は、26年度から少しずつ減少。事業所数がその分増えたのではないというのが一つ問題。</p> <p>現任研修は初任者研修を受講後5年度以内に受講するもので、若干の増。</p> <p>サービス管理責任者研修と児童発達支援管理責任者研修は一緒に実施をしているところだが、26年度からまだ増加をしている状況。28年度は2333と出ているが実施規模は1250なので、2倍まではいかないがかなりの応募があるという状況。今後も研修の増は見込まれる。</p>
岩本会長	<p>議論で出たマンパワーや人材育成の課題がデータに本当に出ている。この辺りもぜひ参考にして今後の協議に繋げていきたいと思う。</p>
岩本会長	<p>実行委員会の進め方について説明をお願いしたい。</p>
大津課長	<p>交流会について、スケジュール的には資料の5 5月から6月に企画検討。実質的に一か月半。8月に向けて申し込み案内を各区市町村に出していく。かなり速いピッチで進めないといけない。内容としては一部が話題提供、二部がグループ討議という形。本日は2グループだったが、だいたい6とか7グループといった形。</p> <p>本日いくつか課題が出ているので、付箋の資料や内容を整理したものを示していく。企画内容は実行委員に示すがそれ以外の方にも情報共有を図りながら進める予定。それぞれの交流会だけを見る形ではなく、基本的には実行委員の方の意見をもらった上で他の委員にも見てもらうというタームを設ける。その上ですべての行事を進めていくという形にする予定。</p> <p>本日出た課題を事務局で整理し、後に示す。</p>
岩本会長	<p>本会議は2回なので、その間実行委員の方でいろいろ意見交換やアイデアを出し、整理したものを事務局が発信、それを受けて活動を進めていくということによろしいか。基本的にはメール等のやり取りが中心。メール上の連絡を中心に進め、例えば交流会の担当も、動向集がこういう形で進んでいるというのを共有できるという進め方によろしいか。</p>
大津課長	<p>動向集については前年度のものを分析、まとめ中。動向集の委員の方にまとめ方や意見を寄せてもらう場面もあるのでよろしくをお願いしたい。</p>
大津課長	<p>第2回の本会議 2月に予定</p> <p>承認された計画で集まる会は第2回になる。8月に地域の交流会がある 案内は送付。ぜひ足を運んでほしい。</p> <p>以上を以て、平成29年度東京都自立支援協議会第1回本会議を終了。</p>